

思

い

立

つ

た

ら

●

ま

す

相

談

# 建替え相談所の日程

街づくり公社では、皆さんの建替え計画を応援するため、毎月第3土曜日に雑司が谷区民集会室において、建替え相談所を開催しています。

建替え相談所では、建築士による建替え相談や、公社職員による事業や融

資制度などの説明を行っています。

また、御希望の方には無料で建替えのモデルプランの作成もいたします。

今年の開催予定は次のとおりです。  
どうぞ、お気軽にご利用ください。

平成7年 3月18日（土）  
4月15日（土）  
5月20日（土）  
6月17日（土）  
7月15日（土）  
8月19日（土）  
9月16日（土）  
10月21日（土）  
11月18日（土）  
12月16日（土）

場所：雑司が谷区民集会室

☎ 3985-8898

時間：午後1時～4時まで受付



まちづくりニュース

41 1995・3

●企画・発行

雑司が谷地区不燃化促進協議会  
財団法人 豊島区街づくり公社

☎ 3981-1111 内2882／関口・細田・鈴木

豊島区都市整備部地域整備課

☎ 3981-1111 内2862／森田(祐)

●編集協力

財団法人 都市防災研究所

☎ 3595-1545／小野

ぞうしゅうがわ

阪神・淡路大震災の犠牲者の方々のご冥福をお祈りいたします

去る1月17日、阪神地区や淡路島を襲った大震災は、日本の近代的な大都市がはじめて経験する地震として、決して人ごとではない多すぎるほどの教訓を私たちに教えてくれました。

古い木造の建物がひとたまりもなく崩れさったばかりか、信頼性が高いと言われていた鉄筋コンクリート造や鉄骨造の建物、高速道路や新幹線などの土木構造物、ライフラインなどの想像以上の被害が日を追うごとに明らかになりました。亡くなられた方は5400人を越え、怪我をされた方も34000人に及び、いまだ厳寒の中、10万の方々が不便な避難所生活を送られています。

紙面をお借りして、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

# 阪神・淡路大震災にまなぶ

1月17日未明、淡路島を震源とするM7.2の地震に、朝の眠りの中にいた多くの方々がたたき起こされたことでしょう。しかしこの地震は、阪神・淡路地区ばかりではなく、日本全国の眠りをたたき起こすに十分な被害を、私たちの目前に突きつけました。

想定をはるかに上回る振動だったとは言え、建築物、土木構造物、ライフラインの被害には、耐震技術に対する過信が無かったとは言い切れません。また、流行語にもなった危機管理も、上は政府から個人に至るまで、対策がなされていなかったか、あるいはマニュアル

はあってもうまく活かすことができずに、被害を大きくした感があります。

まさかと思われていた阪神・淡路地区が大震災に見舞われましたが、決してこれは対岸の火事ではなく、明日は東京で起こるかもしれないということを、改めて肝に命じる必要があります。もう既に、テレビや新聞で、被害の実態やそれに続く避難生活については様々な報道がなされ、皆さんもよくご存じのことと思います。ここでは、阪神・淡路大震災から、私たちの防災まちづくりに学ぶものは何かを考えて見ましょう。

## 市街地火災

未明の地震にも係わらず、阪神・淡路大震災では580カ所もの火災が発生しました。その大部分は初期消火によって消し止められましたが、市街地火災になってしまった所もたくさんあります。

今回の震災では火災の発生件数が非常に多いことが特徴としてあげられます。そして、大震災後の同時多発火災に対しては、消防力がほとんど無力であることも証明されました。

火災による焼失面積は約100haでした。これは決して少ない面積ではありませんが、多くの火災が発生したわりには、東京都

の想定などに比べても少ない面積で鎮火しています。神戸の場合は比較的道網がしっかりしており、また、不燃化も進んでいるために100haの焼失で済んだと言えるかもしれません。



市街地火災で焼け野原となった菅原市場（長田区）

## 建築物の被害

建築物の被害は、くわしい分析を待たなければ正確に原因は判りませんが、被害の印象

としては、大きく3つの種類があると思われます。1つは木造を中心とした被害で、戦後すぐに建てられた老朽家屋の被害が多いことです。大部分の方は家屋の下敷きで亡くなら

れています。2つめは施工技術の未熟さによる被害で、主に鉄骨造などに多く見受けられます。3つめはコンクリート造の被害です。耐震基準が改められる前の建物で、ピロティ

や壁の配置のバランスの悪い建物などが、つぶれるように倒壊している所が多く見受けられます。

地区内の建物でも、老朽化の著しい木造建物や、新耐震設計以前の建物では倒壊など危険性は十分にありますので注意が必要です。



老朽化した木造建物は、もとの形が判らないくらい破壊されているものもあります



大きく変形した鉄骨造のビル



ピロティの柱が折れ傾いたビル

## ライフラインの被害

水、電気、ガス、電話などのライフラインは大きな被害を受けました。ライフラインは市民生活に直結しているだけに、日を追うにしたがって深刻な影響を与えています。地震後直ちに復旧作業が開始されましたが、水道とガスの被害は深刻で、ガスの完全復旧には2か月以上かかりそうです。



水道管の復旧作業、管に大きな亀裂が見えます

## 道路の被害



道路の大きなひび割れ

道路の被害では、高速道路の倒壊がショッキングな映像としてとりざたされることが多いですが、一般の道路では、一部にひび割れや陥没があったものの、比較的早期に復旧がなされました。

ただ、建物やブロック塀の倒壊によって通行のできなくなったり道路が多く、避難のさいに大きな障害となっています。



倒壊した建物でふさがれた道路

## 樹木の効果

被災地を訪れるとき、生垣や庭木、街路樹がほとんど被害を受けていないことに気がつきます。調査によれば、公園や街路の樹木には1本の転倒もなかったとのことです。たまたま建物の際にあったために下敷きになった生垣や庭木はあったものの、逆にブロック塀や建物の倒壊を支えている樹木もたくさんありました。



倒れ掛かった家屋を樹木が支えています



市街地火災の真ん中にあった庭木 焦げてはいるものの燃えずに残っています

# これからのかまちづくり



## 名前もあらたに

協議会では、メンバーを刷新し、気持ちも新たにまちづくりに取り組もうとしています。会の名称もこれまでの「不燃化促進協議会」のままでは、活動の内容にふさわしい名前とは言えなくなっていました。

そこで協議会では、もう少し親しみやすく、皆さんも進んで参加できるような名称に変えようと検討しています。今のところ、「雑司ヶ谷まちづくりの会」とか「雑司ヶ谷のアメニティを考える会」などの案が考えられています。

## まちづくりの範囲も拡大

新しいまちづくりを考える時、不燃化促進区域で区切られたこれまでの範囲では納まらない、周辺部も含めて考える必要があります。

不燃化促進区域は、墓地を火災から守るために120mの範囲で設定された区域ですが、細い路地をはさんで区域が分かれる所が多く、ひとつのまちの区域として考えるには不自然でした。

協議会では、まちやかいわいとしてのまとまりをもった範囲でまちづくりは考えるべきであり、もう少し広い範囲を対象としてまちづくりに取り組みたいと考えています。たとえば、町会の区域で分けることや、大きな道路などはっきりまちの境界のわかる所で分けることなどが

考えられます。

なお、協議会で考えるまちづくりの範囲が拡大しても、不燃化促進区域や防火地域等はこれまでどおりです。

## まちづくりのテーマ

協議会がこれからのまちづくりとして取り組むテーマは、実に広い範囲におよびます。

まず、協議会では、思いつくままに並べてみることにしました。その結果が次のとおりです。大きく5つに分類される19項目がテーマとしてあげされました。

これらのテーマはどれも重要なテーマですが、そのすべてを協議会の中で取り上げることは難しいかもしれません。協議会では、これらのテーマの案をもとに、優先的に取り組むテーマを決めることにしています。

### 新しいまちづくりのテーマの案

#### ■ 災害につよいまちづくり

- 不燃化の促進
- インナーリンクの整備
- 防災マップづくり
- 災害時の対応法の指導等

#### ■ 歴史に学ぶまちづくり

- 歴史資源としての墓園
- まちの歴史に調和する不燃化
- 墓園の案内地図

#### ■ 人にやさしいまちづくり

- インナーリンクの整備
- 狭い道路の優先整備
- 環5の1の整備

#### ■ 住み続けられるいえづくり

- 3世代居住の推進
- ファミリー世帯の定住化
- 新旧住民の交流

#### ■ 守り育てる環境づくり

- 墓地の緑の保全
- 公共施設の優先実施
- 玄関先のミニ緑化
- 緑化の意識啓蒙
- 小学校の開放